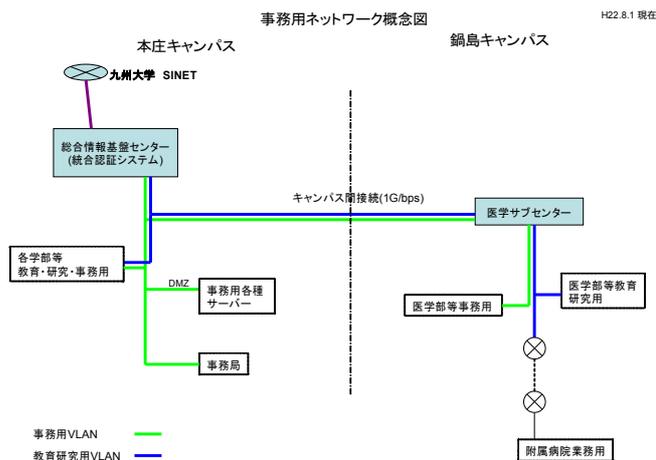


事務情報サブシステム

情報企画室 原田 照利・山田 文弘

佐賀大学における事務情報化は、統合する前の旧佐賀大学及び佐賀医科大学のシステムやネットワークを引き摺りながら、平成15年10月の統合時には、暫定的な対応となった。この時点では、両大学でシステム化されているものが、不揃いであったことと、法人化のために新たに導入する、財務会計システム等のインストール作業のため、調整が先延ばしになっていた。

今回のシステム調達では、これらの問題を少なからず解消した点と、事務用 PC を全てレンタル化し、利用者認証を統合認証システムを用いて行ったことが従来と異なり、大きく前進した点である。



それまでは、キャンパス間で調達体制が大きく異なり、本庄キャンパスでは買取りが多かった(鍋島では、既にセンターのレンタルの中で調達していた。)ため、障害対応及び端末管理・ライセンス管理、PCを利用するための認証が行えていないなど、問題が多かった。

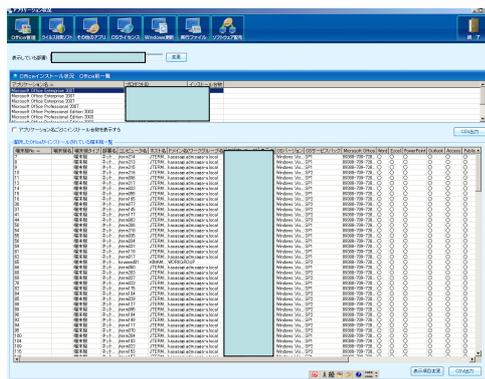
まず、1番目はセキュリティ上問題の多かった利用者認証を、キャンパス間で統合認証システムを利用したものに統一して改善した点である。

次に、MS-Windows Office 等のバージョンによる互換性の問題があるため、同じ事務の中でも、度々データのやり取りに支障が出ており、このため本庄・鍋島キャンパス間では、メールの添付機能や学内便を用いることで対応していたが、このために制約が多く、今回のリプレースでこの点が改善されたことである。

さらに、障害対応及び端末管理・ライセンス管理の問題を解消する手段として、事務系のシステムでは sky というシステムを導入した。

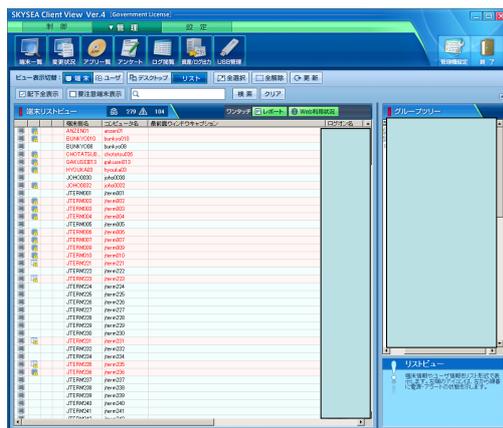
このシステムによる、遠隔地のユーザーからの障害対応・問い合わせ及びライセンス管理といった問題を、リモートによる操作で解消すべく、試験的な運用を開始したところである。

ライセンス管理画面

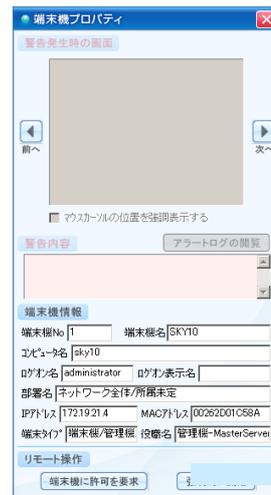


ネットワーク上の制約があるものの、離れているキャンパスでも同一ネットワーク上であれば「障害対応」及び「ソフトウェア」のインストールが遠隔操作で行える点で、本学の事務用でも迅速な対応が可能となり効果を上げている。（ただし、事務系の全てのPCが対象とはならない。）

PC確認画面



(PCの確認及び操作画面)



(ユーザープロパティ画面)

もう一つの大きな問題でもあった、MS-Windows Office 等のバージョンによる互換性の問題で、同仕事の中でもデータのやり取りができないこと。また、本庄・鍋島キャンパス間では、メールの添付機能や学内便を用いることで対応していたが、制約も多いなどの問題があった。

これらの問題を、今回の調達で事務系システムでは、ある程度の解消できたことは大きい。

しかし、問題も多い。業務単位で存在するサーバーの多さと管理の問題、UNIX系やMAC等のOSを利用している学内のユーザーも多いこと、これらに対し、今後どのように対処していくか課題も多い。

グループウェア(i-WARE)の導入について

本学では、グループウェアとして、旧佐賀医科大学情報処理センターが導入したサイボウズ社製“Office6”を使用していたが、総合情報基盤センターの統合認証システムとは連動しておらず、利用者の氏名、所属等をその都度入力する必要があった。

今回のリプレースで導入したNTTデータ九州社製“i-WARE”は、総合情報基盤センターの統合認証システムと連動した利用者管理機能を有しており、利用者の登録が容易となった。

現在、延べ約1,300名の利用者を登録しており、主に、スケジュール管理、施設及び設備予約の機能が利用されている。

今後は、掲示板機能を利用した情報流通の促進、スケジュール参照による会議開催日程調整業務の効率化等が期待される。